

グローバルQC改善発表会を綾部の本社で開催 各国現地法人の代表がそれぞれ 「KAIZEN」を プレゼンテーションしました

11月6日に京都府綾部市の当社本社にて、グローバルQC改善発表会を開催しました。中国、台湾、インドネシア、マレーシア、タイ、そしてインドの現地法人の従業員の代表が一堂に会し、各国事情や自分たちの会社のことを紹介しつつ、日々のワークや改善事例を解説、それぞれが互いにリスペクトし合い、交流を深めました。



日東精工グループはアメリカや欧州(ドイツ)を含め、現在、11の国・地域に18拠点を設けグローバルに展開しています。それぞれ各国事情に合わせた企業活動を行っているわけですが、日々の仕事を常に見直し生産性向上につなげていくという「改善(KAIZEN)は、世界共通のものとなります。

各国で進められている「QC活動」のなかで、とくに優秀なメンバーが代表となって来日、それぞれがその「KAIZEN内容」をプレゼンテーションするのが「日東精工グローバルQC改善発表会」です。今般、日東精工グループのアジアの関連会社、台湾、インドネシア、マレーシア、中国、タイ、インドの現地従業員18名が、京都府・綾部の日東精工本社に集まり、また本社従業員も参加して開催の運びとなりました。

日東精工は「モノづくりの基本は人づくり」という考えのもと、創業以来、人財教育に力を入れており、それは国内だけでなく海外のグループ会

社にも浸透しています(各国の発表テーマは次頁参照)。インドのバルカン社は「QC活動」を学びはじめたばかりということで今回はオブザーバーとして参加、残りの5か国・地域で内容を競い合い、最優秀賞には中国NTZが輝きました。「どの国を最優秀としてもおかしくない、ほんとうに僅差でした。日本人には思いもよらない発想の転換があり、さまざまな気づきがあり、学ぶべきことは多かったです」と当社代表取締役会長 材木正己。

お国によっては渡航制限があり、富裕層などでないとなかなか日本に来られないケースもあるのですが、だからこそ来日メンバー皆が代表に選ばれ、来日できたことを誇りに思い心から喜んでその姿、仕事に対する真摯な姿勢は、日本人従業員にとっても大きな刺激にもなりました。

「QC」は「Quality Control」(品質管理)の略です。QCサークル活動は小集団改善活動とも呼ばれ、職場で自主的に製品やサービスの質の管理や改善に、小集団で取り組む活動のこと



来日メンバーと当社役員、そして当日参加の従業員一同で記念撮影



最優秀賞を獲得したNTZのテーマは「稼働率向上」



材木会長から中国チームにトロフィーを授与

来日したメンバー



中国	
日東精工科技(浙江)有限公司 (NTZ)	
来日 メンバー	陈艳丽 (Chen Yanli)
	唐冬梅 (Tang Dongmei)
	金忆秋 (Jin Yiqiu)
テーマ	中国製廉価材料採用による 原価低減(稼働力向上)



タイ	
THAI NITTO SEIKO MACHINERY CO., LTD. (TNM)	
来日 メンバー	khongmek Sakuna
	Chalermrit Kawinthida
	Sittipeanpinya Suphanut
テーマ	売上向上に向けた取り組み



インドネシア	
PT. NITTO ALAM INDONESIA (NAI)	
来日 メンバー	Ayu Astria
	Farida Fitriani Azzahra
	Yuli Iswanto
	Rifka Rachmadania Putri
	Fikri Wahyu Azhari
テーマ	バーコードを活用した オンライン資産管理記録



マレーシア	
MALAYSIAN PRECISION MANUFACTURING SDN. BHD (MPM)	
来日 メンバー	Adnan Bin Mohamed Nor
	Ong Kim Fei (Sally)
	Nadia Ezurin Binti Aminuddin
テーマ	スタッフの出勤率を 高める事による収益向上



台湾	
旭和螺絲工業股份有限公司 (SHI-HO)	
来日 メンバー	Lee Zhe Ming
	Yen Meng Yen
テーマ	十字穴異物改善



インド	
Vulcan Forge Private Limited (VFG) Vulcan Cold Forge Private Limited (VCF)	
来日 メンバー	Pardeep Singh
	Shubham Kumar Pandey
テーマ	ローリング設備の改造による 省人化と生産性アップ

世界連邦宣言第一号都市・綾部 山崎善也綾部市長を表敬訪問しました

グローバルQC改善発表会のため来日した6か国・地域の18名メンバーが当社が本社をおく綾部市の山崎善也市長を表敬訪問しました。綾部市は、日本ではじめて「世界連邦都市宣言」を行った市です。ノーベル賞受賞のアインシュタインや湯川秀樹博士が中心となっはじまった世界連邦構想は、多様性を認め互いにその違いを尊重しあう、世界がひとつにまとまることで平和が実現できるという考えがベースとなっており、綾部市は人口3万弱の小さな都市でありながら世界連邦都市宣言のもと「中東和平プロジェクト」を推し進めるなど、ユニークで先進的な取り組みをしています。今回のQC大会は日東精工グループという一企業のイベントではありますが、多くの国のメンバーが集い一つになるという点では、まさにこの「世界連邦」にもつながっていくものです。

来日メンバー代表としてマレーシアのアドナンさんが挨拶をしたことを受け、山崎市長からは日東精工が綾部のまちにどれだけ貢献しているかを、日東精工アリーナや日東精工スタジアムのネーミングライツを例にとりながら説明。これからも綾部市と日東精工とのパートナー

シップを強化したいというお話をいただきました。

中国のチェンさんからの

「綾部のまちはどうしてこんなにきれいなのですか？」という質問に「綾部の人は自分のまちが好きだから」と市長が答えるなど、和やかな時間となりました。

「こういった機会を通して、当社の社員だけでなく、綾部

の若い人たちがどんどん世界に目を向け視野を広げてほしいです」と材木正己当社代表取締役会長。

日東精工グローバルQC改善発表会は2017年に第1回大会を実施、本年2025年に第2回を開催しました。これからもこういった機会を設けていきたいと考えています。



山崎善也綾部市長(中央右)、当社代表取締役会長材木正己と来日メンバー18名



山崎市長に各国の代表がそれぞれのお土産を手渡し、市長からはかたい握手をしていただきました

NAI社が創立40周年。 海外主幹者会議も開催

当社インドネシア連結子会社であるPT. NITTO ALAM INDONESIA (NAI社) が創立40周年を迎え、10月14日に現地、創業の地、タンゲラン工場で記念式典が行われました。この式典には日本から当社代表取締役社長荒賀誠が出席したほか、前日の10月13日に同インドネシア・ジャカルタのブカシ工場(2018年稼働)で開催された「海外主幹者会議」に出席したメンバーも参加し、ともに40周年を祝いました。



全員で記念撮影。功労者に記念品を贈呈する荒賀(上)

当社秘書室長が地元の小中高校で 特別授業を行いました

当社秘書室長の井ノ元美和は、毎年、当社が本社をおく綾部を中心に地元の小中・ならびに高等学校で特別授業を行っています(最近では9月1日に上林中学校、9月9日志賀小学校、10月20日中筋小学校、11月10日若浦中学校で実施)。井ノ元はキャリアコンサルタントの国家資格をもっており、高校生にはビジネスマナー検定3級取得対策を、中学生には働く意義や簡単なビジネスマナー、小学生にはキャリア教育のファーストステップとして自分の強み(好きなこと、得意なこと)を大切にすることなどを幅広い視点から講義し、と同時に、もちろん子どもたちに地域の会社としてより親しみをもってもらえるよう、日東精工の魅力も伝えています。



インドでのビジネス展開を深化 ハリヤナ州首相との面談が実現!

当社は、本年3月にインドのVulcan (バルカン) 社およびその関連会社の子会社化を完了し、現地の製造力・技術力の活用、サプライチェーンの一体化により、インド市場での事業基盤の強化を図っています。今般、Vulcanグループがあるインド・ハリヤナ州のナヤブ・シン・サイニ首相が来日され、当社代表取締役社長 荒賀誠が会談いたしました。日本インド文化経済センターの仲介で、「インド・ハリヤナ州投資誘致ロードショー」のために来日された首相に時間をとっていただき実現したもので、ハリヤナ州に拠点を置く当社グループVulcanグループを紹介。現地産業の成長と日印双方の事業機会拡大に資する協業などをご説明。当社日印間の経済連携強化に向けた貴重な機会となりました。



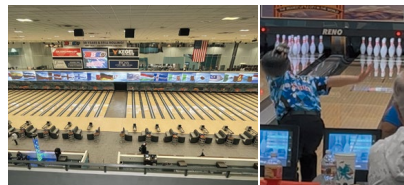
インド・ハリヤナ州首相(左)と荒賀

スポーツでも当社社員&グループ社員が 世界で活躍しています!

当社パラグライディング部の岩崎拓夫がアジア大会で金メダルに輝いたほか、世界を転戦していることはすでにこのニュースレターでも紹介していますが、世界を舞台にスポーツで活躍するグループ社員はほかにもいて、ケーエム精工(株)の品質保証部長 井岡聖一もそのひとりです。2025年10月にアメリカ・ネバダ州リノで開催されたIBF世界シニア選手権(ボウリング)日本代表として出場し、世界の強豪を相手に好成績を収めました。



ブラジル開催の「19th FAI World Paragliding Championships」に参加した岩崎拓夫



有資格者から日本代表男子に選ばれた、井岡はサウスボーで世界選手権に参加

ワンダーに磨きをかけよう

代表取締役社長 荒賀 誠

今 年のノーベル賞受賞者のおひとり、北川進博士にまつわるエピソードです。先生はかつて京都大学定年退職記念にビールグラスを配られたのですが、そのグラスには「Discovery Wonder Passion」と刻まれています。「発見があつて、それに驚いて、情熱をもって解き明かしていく」ことが大事との説明でしたが、その場にいた外国人研究者から「驚き」なら Surprise ではないかとの指摘に「いやサプライズではなくワンダーだと」と力強く言いさられたといいます。

ワンダーとは「これはなに？ふしぎだ、おかしいな？」という感覚です。ほうつてもいいけれど、その小さな気づきを突き詰めていけば新しい発見につながっていくわけです。「結婚記念日に友人がこっそり集まって祝ってくれた」など、そのときその場で感じ受け取るうれしい驚きがサプライズだとすると、ワンダーは自分がどんどん主体的・能動的になつていく、自分がいままで気づかなかったものに出合う驚きでしょうか。もちろん、ワンダーはエリート科学者だけのものではありません。職場においても、プライベートな時間にあつても、小さな気づきが改善につながったり、新しい関係を築きかけになったりもします。私たちもワンダーを大切にし、自分に磨きをかけていきましょう。

※『人生の「ねじ」を巻く77の教え』の48番ではチャンスとオポニュニティの違いにふれています。サプライズとワンダーの違いもそうですが、ふだん何気なく使っている言葉を改めて見直し、深堀していくことも大事です。

「幸せ」を見つけるヒント ——— 12月

金色に輝く「ねじ」

京都の烏丸御池近くに「御金神社」があります。もともとは鉄など金属関係者にご利益があるといわれる地味な神社だったのですが、神社をプロデュースする方がおられて、烏居を金色に装飾されたことで俄然注目されるようになり、今では〈money〉のほ



うのご利益を期待してお参りする人が増えたそう。金色といえば、当社の「受験生応援ゆるみ止めねじ」も金色に輝いています。12年目となるこのプレゼントキャンペーンもこの時季の風物詩になりました。じつは毎年、工夫をして内容を少しずつ変更しているのですが、それでも、このねじを受け取った方が万事うまくいき、輝いてほしいという思いはずっと変わることはありません。



詳細は▲

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭

材木正己

